

九州支部からご挨拶



浜瀬 健司

日本分析化学会の皆さま、こんにちは。2019年度の九州支部長を仰せつかりました九州大学薬学部の浜瀬です。九州支部は2016年に60周年を迎えましたので、現在63年目です。私は1996年から九州支部にお世話になっておりますので、20年以上九州支部に育てて頂きました。九州支部では本年5月に竹中繁織先生を実行委員長として第79回分析化学討論会を北九州で行いました。多くの皆様に参加頂き、深く御礼申し上げます。

さて、九州支部は東京から一番遠い（距離的に）支部ですので、多くの先生方には馴染みが薄いかもしれません。この機会にぜひ、九州支部の活動を紹介させて頂きたいと思っております。九州支部の活動としては、九州分析化学若手の会、分析化学講習会、九州支部講演会・見学会、機器分析ワークショップなどが挙げられます。このうち、九州分析化学若手の会は「春の講演会」と「夏季セミナー」を企画しており、春の講演会は今年で第32回を迎え、毎年様々な領域から先生方に御講演頂いております。夏季セミナーは九州支部で最大の行事であり（若手の会が最大行事というところで、九州支部の若さと活気を御想像下さい）、毎年1泊2日で150から200名近い学生と教員が参加し、講演とポスター発表を行います。夏季セミナーは今年で第37回を迎え、第25回から続いている北海道支部若手の会（緑陰セミナー）との北端・南端交流活動も13年になりました。一步一步、着実に活動を続ける重みを感じます。

分析化学講習会は、九州支部の行事の中でも歴史があり、今年で第60回を迎えます。分析化学講習会は九州、中国、四国、沖縄など、西日本を中心に毎年60名前後の参加者が来られ、HPLC、GC、原子スペクトルの3単元として開催地を1カ所に集約し、長い間実施してきました。しかし昨年から開催方針を大幅に改良し、九州大学伊都地区、九州大学医系地区、福岡大学理学部、福岡市産学連携交流センターの4会場で4日間にわたってHPLC、GC、ICP-MS、X線分析、SEM/TEM、NMRの講習・実習が実施され、受講生は同じ参加費で自由に参加単元をアレンジできるシステムとなりました。また、HPLCでは第54回から日本分析化学会認定資格である「HPLC分析士」の筆記試験免除認定をうけています。このほか、分析機器メーカーなどの新技術を紹介する機器分析ワークショップも九州各地で開催しており、良い社会貢献につながっていると思っております。

顕彰事業としては、「九州分析化学会賞」、「九州分析化学奨励賞」、「九州分析化学ポスター賞」、「九州分析化学若手賞」を授与しており、若手をプロモートする多くの表彰を実施しているのが特徴です。このうち、長年九州支部に貢献頂いた先生に贈られる「九州分析化学会賞」は支部講演会で御講演頂きますが、「九州分析化学奨励賞」、「九州分析化学ポスター賞」は、九州支部最大イベントである若手の会夏季セミナーにおいて受賞講演と模範発表が行われ、更に若い世代に対して高い教育効果があります。

九州支部は関門海峡から与那国島までの広い領域をカバーしており、距離だけで申しますと1000kmを超えるおそらく日本最大の支部です。距離は遠いですが、航空網が整備されているのでとても便利です。近年は沖縄での活動も活発化しており、真に九州沖縄8県で力を合わせて分析化学を盛り上げようとしております。ぜひ、色々な機会に九州支部にお越し頂ければ幸いです。

[Kenji HAMASE, 九州大学大学院薬学研究院, 日本分析化学会九州支部長]